

長浜 介護施設に今年も干支飾り

今年の干支に合わせ、着物を着た木彫りのウサギ二体が長浜市川道町の介護老人保健施設「琵琶」のロビーにお目見えし、来客者を出迎えている。施設の入所者と職員が協力して作り、仲良く初詣に訪れたような愛らしい様子で周囲を和ませている。今月末まで飾る予定。

(平子宗太郎)

二体のウサギは高さ約一・二尺と約八十センチ。赤い着物を着た姉と、紋付きはかまの弟という組み合わせにした。施設では毎年、正月ごろに干支を題材にした作品を飾るのが恒例。今回も職員と入所者でアイデアを出し合い、入所者のリハビリを兼ねて制作した。

男性職員が実家の山から杉の木を伐採し、チェーンソーを使ってウサギが立っている姿に削り出した。途中、片方のウサギの耳を切り落としてしまふなどのトラブルも。身長差をつけた形に軌道修正することで問題を解決した。

ウサギに着せている着物などは、入所者の松井艶子さん

木彫りウサギ ロビーで出迎え



姉弟のウサギの木彫りを前に笑顔を見せる松井さん(左)、田中さん(右)＝いずれも長浜市川道町の介護老人保健施設「琵琶」で

裁縫得意な入所者 古着で着物作り

(左)と田中美千代さん(右)が古着の着物や端切れから作った。弟のはかまには使わなくなったカーテン、姉の着物には、子ども用の着物をそれぞれ大きさに合わせて仕立てた。木の伐採から二月ほどで全て完成させた。

松井さんの父は戦前、大阪市で呉服店を営んでいたとい「針仕事をよく手伝っていました。だから手が覚えていたんですね」。田中さんも「私たちの世代は、よつ着物を縫ったんです。今のように何でもある時代ではなかったですから」と振り返った。完成したウサギを見て、二人は「立派なものが見えた」と目を細めていた。

制作を企画した職員の中川淳子さん(左)は「勘や記憶だけで作ってしまった。二人の腕には驚かされた。これからは趣味を楽しみながら元気でいてほしい」と話していた。



ウサギに着せる帯や小物を仕上げる田中さん(左)。職員の中川さん(右)がそばで見守った



私は東京デイズニードが大好きです。園内は夢の国で、みんな笑顔。キャラクターの乗り物やショーを見



ると、気持ちがワクワクして前向きになれる。す。

長浜市富永小5年 野村理奈さん

枕木交換やガード敷設へ

ト製に交換するほか、レールと並行する脱線防止レールを鉄製で安定感のあるガードに変更するなどし

冷たい琵琶湖 気合で「エイッ」

える滋賀「稽古」が原町の松た。気温

- 川湊介
- ◇長浜
- ◇彦根
- ◇後三条町
- ◇米原
- ◇甲賀
- ◇甲南町



徳田